

木 目 込 み 人 形 講 座

- 日 時 10月5、19日(日) 9時30分～11時30分
 ○場 所 三田ヶ谷公民館 ○講 師 細野 和江 氏
 ○対 象 市内在住、在勤の方 ○テーマ 干支午
 ○定 員 20名(先着順)
 ○費 用 大:3,200円 小:2,800円(大きさで異なります)
 ○持ち物 エプロン、布切りばさみ、紙切りばさみ、小ばさみ、
 古タオル、ヘラ(お持ちの方のみ)
 ○申込み 9月7日(日)8時30分より、費用を添えて公民館へ



大きい午

小さい午

まなんで、たのしい！ けやき大学！！

全6回のけやき大学は、残り3回を予定しています。興味のある方は見学に来てみませんか？

- 9月4日(木) 人権講座、三田ヶ谷あれこれ講座
 9月25日(木) グラウンド・ゴルフを楽しむ(10月2日予備日)
 10月23日(木) 笑って健康DVD鑑賞



6月5日「バンド生演奏」



7月10日「カラオケを楽しもう！」



8月20日「市長講話」

はつらつ教室

日 時:9月26日(金)10時～11時
 持ち物:タオル、飲み物
 場 所:三田ヶ谷公民館和室
 お問い合わせ 高齢介護課

健康運動教室

日 時:9月10日(水)10時～11時30分
 持ち物:タオル、飲み物
 場 所:三田ヶ谷公民館和室
 お問い合わせ 健康づくり推進課

☆裏面もご覧ください☆

9月の公民館休館日

毎週火曜日、15日(月)、24日(水)



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

「いいでえー！！三田ヶ谷！ ～歴史と文化～」

(第16回 田山花袋が訪ねた弥勒)

明治42年刊行の田山花袋作『**田舎教師**』は、羽生を舞台にした小説です。花袋は義兄の**太田玉茗**（おおたぎょくめい）を通して知った「小林秀三の日記」を参考にして、小説を書きました。玉茗は詩人や翻訳者であるとともに、建福寺（羽生市南1丁目）の住職を務めた人物です。

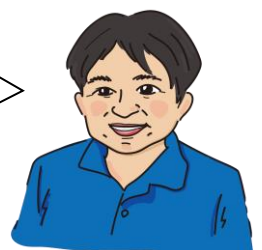
花袋は小説を書くにあたって、秋の日に**小林秀三**（主人公のモデル）にゆかりのある三田ヶ谷地区を訪ねて歩きました。その中に、秀三が勤めていた**弥勒高等小学校**も入っています。のちに、花袋は次のような文章を綴っています。

弥勒の村は、今では変って賑やかになったけれども、その時分はさびしいさびしい村だった。その湯屋の煙突からは、静かに白い煙が立ち、用水縁の小川屋の前の畠では、百姓の塵埃（じんあい）を燃している煙が斜めになびいていた。私と〇君（太田玉茗）とは、その小川屋で、さいの煮付で酒を飲んだ（『東京の三十年』収録「田舎教師」より）。

田山花袋は弥勒を訪れただけでなく、当時実在した**小川屋(杉田屋)**でお酒を飲んでいることがわかります。私小説の草分け的存在として、近代日本文学史に燦然と輝く花袋が、弥勒に確かな足跡を残しています。弥勒で口にしたお酒は、どんな味だったのでしょうか。

立秋を過ぎ、暦の上では秋の季節となりました。田山花袋の目線に立って、郷土弥勒の景色を見ると、新たな発見があるかもしれません。あるいは、創作意欲がわいてくるのでしょうか。秋の訪れとともに、改めて『田舎教師』を手にとってみてはいかがでしょうか。

写真は弥勒高等小学校の跡地です。その西側には、小林秀三の日記にも見える「宮沢商店」がありました。



公民館主事：高島

